

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

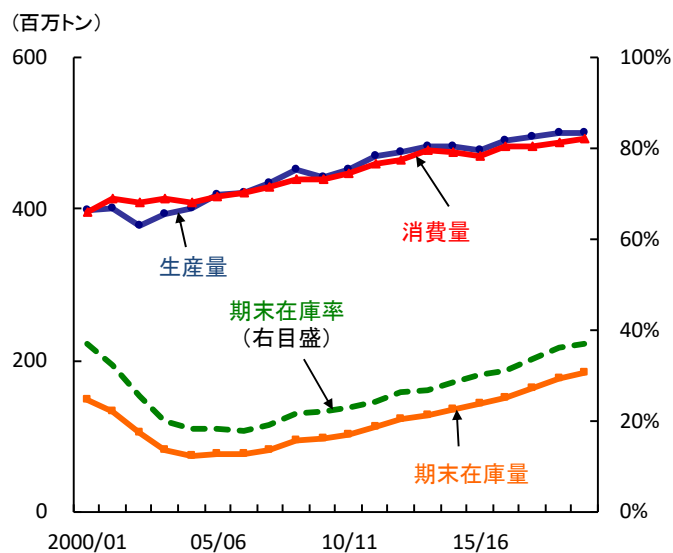
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インドネシア等で上方修正も、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料 : USDA 「PS&D」 (2020. 3. 10) をもとに農林水産省にて作成

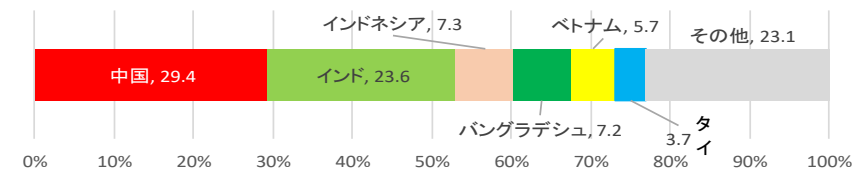
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

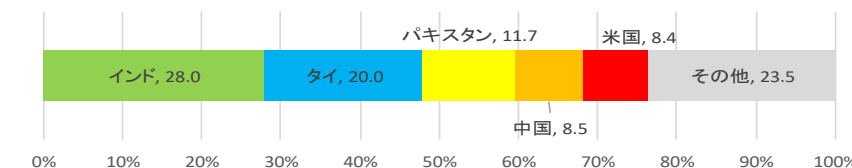
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	494.8	499.4	499.3	3.1	▲ 0.0
消 費 量	482.2	486.6	492.3	▲ 0.8	1.2
輸 出 量	47.3	43.5	44.3	▲ 0.5	1.9
輸 入 量	46.6	43.0	42.0	▲ 0.6	▲ 2.3
期末在庫量	162.6	175.3	182.3	4.2	4.0
期末在庫率	33.7%	36.0%	37.0%	0.9	1.0

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 March 2020)

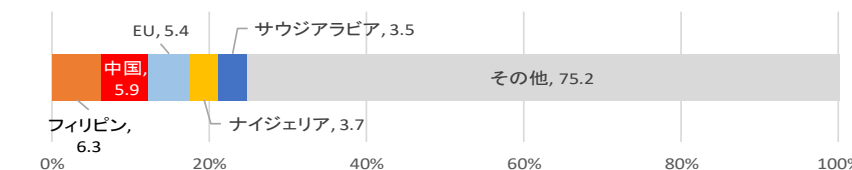
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (499.3 百万トン) (単位 : %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (44.3 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (42.0 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】2019年12月上旬までに、収穫は全米で終了した。

USDAによれば、生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比17.6%減の5.9百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約3割を占める。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、中・短粒種の輸出の減少はあるものの、長粒種の輸出が伸びていることから、対前年度5.7%増の3.1百万トンの見込み。輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度12.0%増の1.0百万トンの見込み。

< ベトナム >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.9%増の28.3百万トンの見込み。

なお、現地情報によると、3月は中部・南部で平年より気温が高くなった。南部の沿岸部では干ばつと塩害が深刻化している。このため、作柄への影響が懸念される。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比6.4%増の7.0百万トンの見込み。

なお、2020年1月～2月の輸出は、数量では93万トンと対前年同期比(71万トン)で31%増加、金額では430.4百万USドルと対前年同期比(308.8百万USドル)で39.4%増加している。その内訳(数量)は、フィリピン向けが38.4%を占める。前年度と比較して特にマレーシアへの輸出量が増えている。マレーシア、韓国、フィリピン、インドネシアからの需要増により、2月のベトナム米輸出価格(砕米5%)は、388ドル/トンで1月より36ドル/トン値上がりした。

ベトナム税関によれば、2020年3月25日から28日にかけて、食料安全保障の確保のための調査を行うため、新規の米の輸出契約を一時停止した模様。

米-米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	5.9	-	▲17.6
消費量	4.3	4.6	4.2	-	▲7.7
輸出量	2.8	3.0	3.1	-	5.7
輸入量	0.9	0.9	1.0	-	12.0
期末在庫量	0.9	1.4	1.0	-	▲33.1
期末在庫率	13.2%	18.8%	12.9%	-	▲5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	-	▲15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.38	-	▲2.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)

米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.8	28.3 (28.8)	-	1.9
消費量	21.5	21.5	21.5 (22.6)	-	-
輸出量	6.6	6.6	7.0 (6.8)	-	6.4
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.1	1.3 (3.4)	0.1	17.9
期末在庫率	3.7%	4.0%	4.6% (11.4%)	0.4	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.65	7.62	7.67 (7.57)	-	0.7
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.81)	-	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report (27 February 2020)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月からの変更はなく、対前年度比1.2%減の146.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月からの変更はなく、対前年度比15.5%増の3.2百万トンの見込み。

一方、輸入量は前月予測から変更はなく、対前年度比20.0%減の2.4百万トンであり、2009/10年度以来、10年ぶりに純輸出国となる見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(2月)によれば、2月の早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,800元/トン(1月は3,680元/トン)、4,120元/トン(同4,120元/トン)、4,160元/トン(同3,680元/トン)。価格は、新型コロナウイルス肺炎の予防の影響で、米の家庭内消費が増加するため早期インディカ米、ジャポニカ米が上昇。

< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2019/20年度の前月予測からの変更はないものの、乾季米の降雨不足による減産見通しにより対前年度比9%減の18.5百万トンの見込み。収穫面積は対前年度比7.7%減少、単収は対前年度比1.8%減少。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の前月予測からの変更はなく、対前年度比0.8%減の7.5百万トンの見込み。これは過去7年間で最も低い水準である。

2020年1月のタイ米の輸出量及び輸出額は、前年同期比で輸出量は42.5%の減少、輸出額は39.1%と大幅な減少となった。

現地情報によれば、3月は、タイ産米への需要は上がっているが、理由は、中国、香港、シンガポールなどで、新型コロナウイルスの影響で消費者の買増しによる米の需要が増加するとみられているためである。

米-中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.7 (146.7)	-	▲ 1.2
消費量	142.5	142.7	142.9 (143.3)	-	0.1
輸出量	1.4	2.8	3.2 (3.5)	-	15.5
輸入量	5.5	3.0	2.4 (2.5)	-	▲ 20.0
期末在庫量	109.0	115.0	118.0 (113.4)	-	2.6
期末在庫率	75.8%	79.0%	80.8% (77.3%)	-	1.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	29.69 (29.69)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	7.06 (4.94)	-	0.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC「Grain Market Report (27 February 2020)」(単収は精米t/ha)

米-タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.3	18.5 (19.2)	-	▲ 9.0
消費量	11.0	11.8	11.7 (11.4)	-	▲ 0.8
輸出量	11.1	7.6	7.5 (8.0)	-	▲ 0.8
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	4.2	3.8 (4.4)	-	▲ 10.6
期末在庫率	13.6%	21.9%	19.7% (22.8%)	-	▲ 2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	10.00 (10.00)	-	▲ 7.7
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.80 (1.83)	-	▲ 1.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC「Grain Market Report (27 February 2020)」(単収は精米t/ha)

<インド>

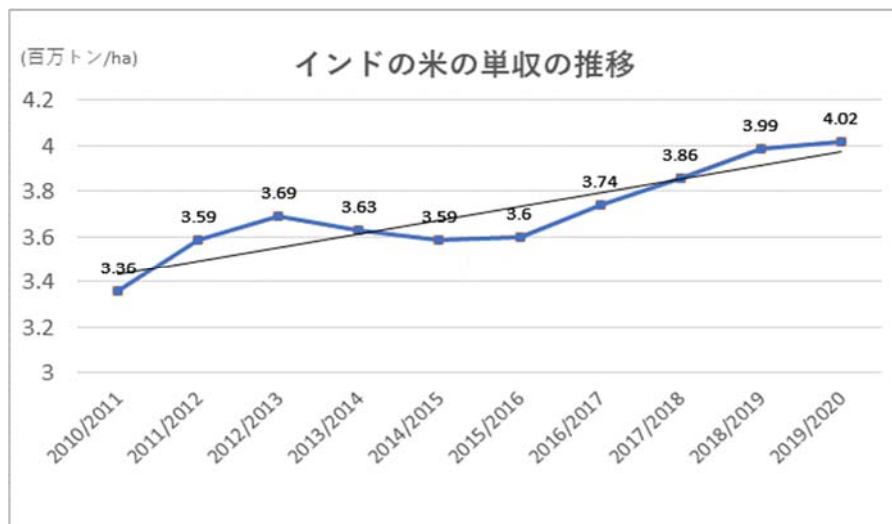
【生育・生産動向】 現在、インドではラビ米の作付けが続いているが、南部及び南東部では栄養生長期に入っている。

インド農業省によると、1月31日時点でのラビ米の作付けは、2.9百万ヘクタールに達しており、前年同期の2.5百万ヘクタールを上回っている。

USDAによれば、2019/20年度の生産量予測は、前月から3.0百万トン上方修正され、対前年度比1.3%増の118.0百万トンの見込み。なお、インドの単収は、2010/11年度には3.36トン/ヘクタールであったものが、2019/20年度には4.02トン/ヘクタールと10年間で大きく向上している。

【貿易情報・その他】 USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、0.7百万トン下方修正されたものの、対前年度比0.8%増の10.5百万トンと、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、3月時点の政府備蓄量は31.0百万トンと1月1日時点の備蓄必要量（7.6百万トン）を大きく上回っている。



資料：USDA「World Agricultural Production」(2020.3.10)

米-インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	112.8	116.5	118.0 (115.0)	3.0	1.3
消費量	98.7	99.2	102.0 (102.4)	▲ 0.5	2.9
輸出量	12.0	10.4	10.5 (10.4)	▲ 0.7	0.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	29.5	35.0 (30.7)	4.2	18.6
期末在庫率	20.4%	26.9%	31.1% (27.2%)	4.0	4.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.77	43.80	44.00 (43.50)	0.50	0.5
単収(もみt/ha)	3.86	3.99	4.02 (2.70)	0.05	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC「Grain Market Report (27 February 2020)」(単収は精米t/ha)

写真：ラビ米の田植えの様子(西ベンガル州フーグリー県アクナ村)
西ベンガル州は米の二期作を行っている(2020年3月1日撮影)。



II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

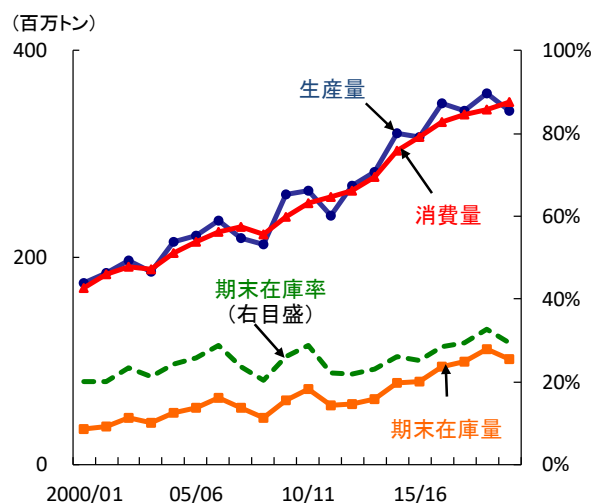
<米国農務省 (USDA) の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑
 ・ブラジル、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓
 ・アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2020.3.10)をもとに農林水産省で作成。

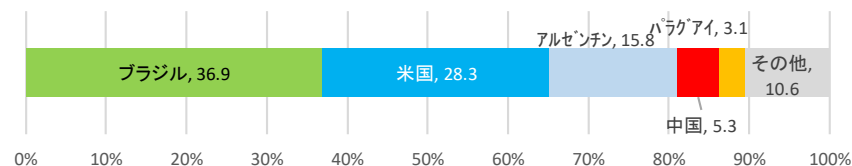
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

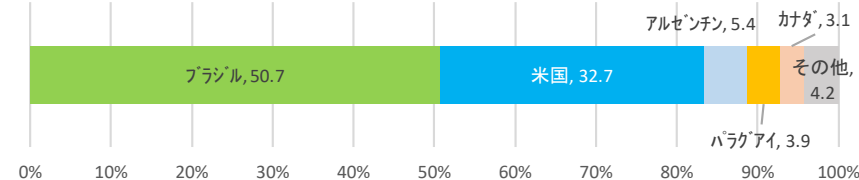
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	342.1	358.7	341.8	2.4	▲ 4.7
消費量	338.1	342.9	350.1	▲ 1.0	2.1
うち搾油用	294.6	297.5	303.5	▲ 0.9	2.0
輸 出 量	153.1	148.3	151.9	0.4	2.4
輸 入 量	153.3	145.4	150.8	▲ 0.1	3.7
期末在庫量	99.1	111.9	102.4	3.6	▲ 8.4
期末在庫率	29.3%	32.6%	29.3%	1.1	▲ 3.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 March 2020)

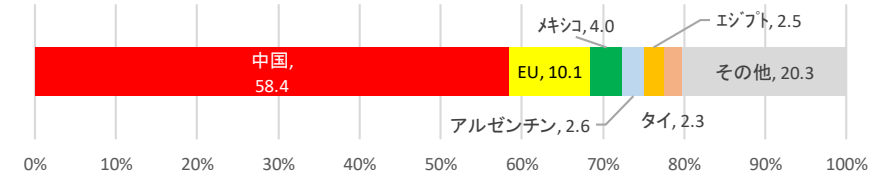
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量 (341.8 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量 (151.9 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量 (150.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、対前年度比 19.6%減の 96.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、49.7 百万トンの見込み。

輸出検証高（2020年1月2日～3月6日）は、8.6 百万トンである。（下表参照）

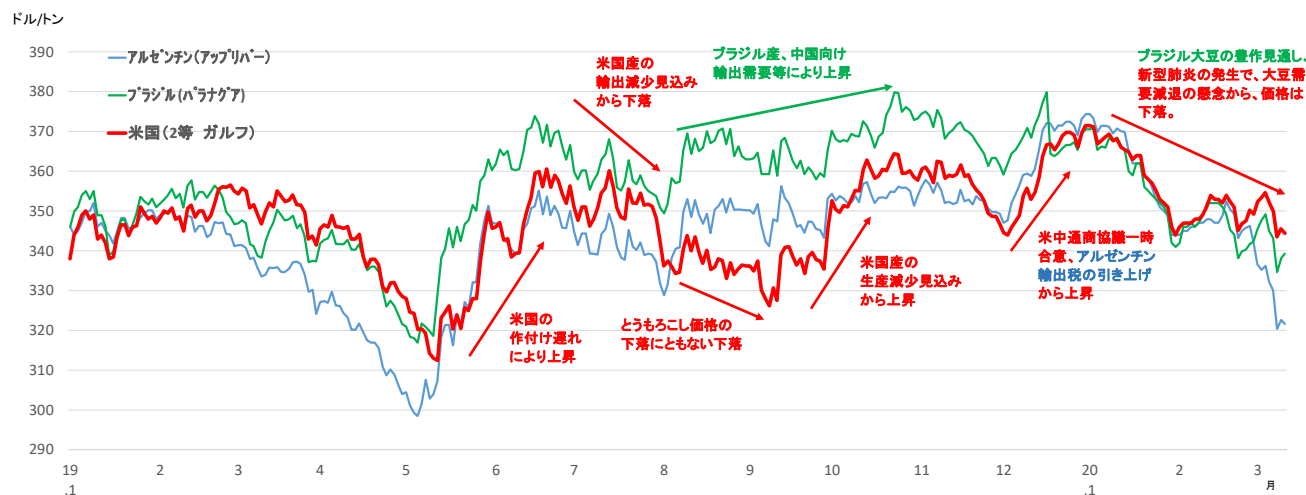
大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	120.5	96.8	-	▲ 19.6
消費量	58.9	60.5	60.8	▲ 0.0	0.4
うち搾油用	55.9	56.9	57.3	-	0.6
輸出量	58.1	47.6	49.7	-	4.4
輸入量	0.6	0.4	0.4	-	7.9
期末在庫量	11.9	24.7	11.6	0.0	▲ 53.3
期末在庫率	10.2%	22.9%	10.5%	0.0	▲ 12.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.45	30.36	-	▲ 14.4
単収(t/ha)	3.31	3.40	3.19	-	▲ 6.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 March 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

米国の大豆輸出先国別輸出量（輸出検証高）(万吨)

	国名	輸出検証高	
		2020年累計	2月
1	中国	282.4	54.4
2	メキシコ	88.4	44.9
3	エジプト	62.6	38.7
4	日本	56.0	32.3
	その他	423.5	147.3
	計	856.9	285.3

注1：2月の輸出検証高は、2月13、20、27日及び3月6日の合計

注2：累積輸出検証高は、2020年1月2日～3月6日の合計

出典：USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、主産地の中西部のマトグロッソ州、南部のパラナ州で生育期に天候に恵まれ、生育期を通じて降雨の少なかったリオグランデドスル州等の一部地域を除き、作柄は良好で、前月予測から1.0百万トン上方修正され、史上最高の126.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.3.10)によれば、2019/20年度の実生産量は、前年度比8.0%増の124.2百万トンの見込み。

USDAによれば、中西部のマトグロッソ州の収穫はほぼ終了、南部のパラナ州の収穫進捗率は75%(3月16日)となっている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更はなく、46.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、史上最高の77.0百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1～2月の累計輸出量は6.5百万トンで、前年は収穫進捗が例年より早く、新穀の輸出が早い段階で始まったことから前年同期比11%減となっている。内訳は、1位が中国で4.8百万トンと全体の73%を占めている。

写真 中西部マトグロッソ州の大豆(3月5日撮影)
晴天が続き順調に収穫。



大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	122.0	117.0	126.0 (126.0)	1.0	7.7
消費量	46.5	44.8	46.4 (…)	-	3.5
うち搾油用	44.2	42.5	43.8 (…)	-	3.0
輸出量	76.1	74.6	77.0 (…)	-	3.2
輸入量	0.2	0.1	0.2 (…)	-	7.1
期末在庫量	32.7	30.5	33.2 (…)	1.1	9.0
期末在庫率	26.7%	25.5%	26.9% (…)	0.9	1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (37.20)	-	2.8
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.41 (3.39)	0.02	4.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(21 February 2020)

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の作付けは、2019年9月以降、開始。

2020年2月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度	2019年												2020年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
夏とうもろこし																						
冬とうもろこし																						
大豆																						

注: 夏とうもろこし: リオグランデドスル州等 作付 4.2(百万ha) 収穫 25.6(百万t) 収穫夏冬計 100.1百万t
冬とうもろこし: マトグロッソ州、パラナ州等 作付面積夏冬計 17.9百万ha 作付 13.7(百万ha) 収穫 74.5(百万t)
大豆: マトグロッソ州、パラナ州等 作付 36.8(百万ha) 収穫 124.2(百万t)
大豆収穫後一部圃場で冬とうもろこしを栽培

資料: Conab穀物レポート(2020.3.10)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、一部地域の洪水の影響で収穫面積が前月予測から下方修正された一方、開花期に天候に恵まれ、単収が上方修正されたことから2019/20年度の生産量は、前月予測から1.0百万トン上方修正され、54.0百万トンの見込み。

一方、「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2020.3.12)によれば、2019/20年度の作付けは終了し、作付面積は17.4百万ヘクタール、生産量は主産地コルドバ州、サンタフェ州で高温と土壌水分不足のため生育への悪影響が懸念され、前週(54.5百万トン)から下方修正され、52.0百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から1.0百万トン下方修正され、50.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出力は、前月予測からの変更はなく、8.2百万トンの見込み。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出力よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出力が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

フェルナンデス新政権は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出力税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。なお、生産規模ごとに税率が20~33%と細分化され、年間1,000トンを超える生産者は33%課税されることとなった。

大豆ーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	55.3	54.0 (53.8)	1.0	▲ 2.4
消費量	43.6	47.5	50.7 (…)	▲ 1.0	6.8
うち搾油用	36.9	40.6	43.6 (…)	▲ 1.0	7.5
輸 出 量	2.1	9.1	8.2 (…)	-	▲ 9.9
輸 入 量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 39.2
期末在庫量	23.7	28.9	27.9 (…)	2.0	▲ 3.5
期末在庫率	51.9%	51.1%	47.4% (…)	0.04	▲ 3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	17.00 (17.00)	▲ 0.50	2.4
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.18 (3.16)	0.15	▲ 4.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(21 February 2020)

写真 北部サンタフェ州の大豆(2月23日撮影)

天候に恵まれ順調に生育。3月下旬に収穫予定



< 中国 >

【生産・生育状況】前年12月6日に公表された中国国家统计局のデータによれば、生産量は、前年度比13.3%増となり史上最高の18.1百万トンの見込み。

2019/20年度の収穫面積は、政府による大豆生産への高い補助金により農家の作付け意欲が増したことから9.3百万ヘクタールと対前年度比10.6%増加した。

【需給動向】USDAによれば、消費量は、前年のASFの甚大な影響からの回復の初期段階を迎え、中国国内における搾油用消費量がわずかに回復し、86.0百万トン、期末在庫量は、21.7百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸入量は前月から変更はなく、88.0百万トンの見込み。

中国財政部は、2月14日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税30%のうち、2019年9月追加分の5%分を半減させ、追加関税を27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2月18日、1年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～2月の輸入量は13.5百万トンと、前年同期比で14%増。内訳は、米国産6.1百万トン(45%)、ブラジル産5.1百万トン(38%)である。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2月号」(2020.3.17)によると、新型コロナウイルス肺炎の流行を予防・制御するため、生産地の交通規制で消費地への輸送が制限され、供給が厳しくなったことから、2月の国内流通価格は上昇した。

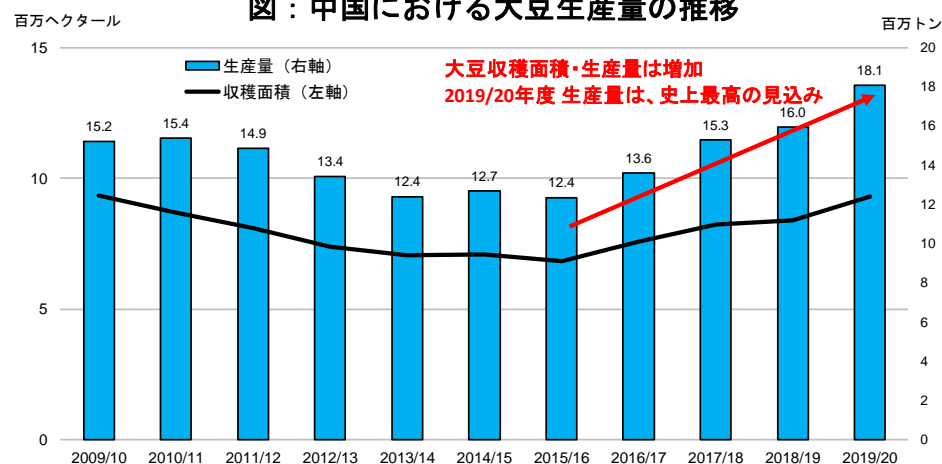
大豆—中国

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、OはOil.W	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	15.3	16.0	18.1 (15.7)	-	13.3
消費量	106.3	102.0	103.7 (…)	-	1.7
うち搾油用	90.0	85.0	86.0 (…)	-	1.2
輸出量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	8.3
輸入量	94.1	82.5	88.0 (…)	-	6.6
期末在庫量	23.1	19.5	21.7 (…)	-	11.7
期末在庫率	21.7%	19.1%	20.9% (…)	-	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.25	8.41	9.30 (8.42)	-	10.6
単収(t/ha)	1.85	1.90	1.95 (1.87)	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(21 February 2020)

図：中国における大豆生産量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2020.3.10)を元に農林水産省にて作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2020.3.19)によれば、2019/20年度の生産量は、対前年度比18.5%減の6.0百万トンの見込み。生育期に天候に恵まれず、収穫面積が減少した。さらに、特にカナダ西部で収穫時に悪天候となり、収穫ロスが発生した。

これから作付けされる2020/21年度については、価格の低迷により、作付面積が、前年度の2.31百万ヘクタールから2.23百万ヘクタールに減少するものの、単収が過去5年平均の2.95トン/ヘクタールに回復すれば、生産量は6.6百万トンと前年度より増加すると見込んでいる。

【需給状況】AAFCによれば、2019/20年度の搾油用消費量は、生産量減少と、搾油需要が一部なたねにシフトしているため、前年度(2.1百万トン)を下回る1.8百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、4.7百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.0 (6.0)	-	▲ 17.4
消費量	2.9	3.0	2.7 (2.5)	-	▲ 9.5
うち搾油用	1.9	2.1	1.9 (1.8)	-	▲ 8.5
輸 出 量	4.9	5.3	4.7 (4.3)	-	▲ 10.6
輸 入 量	0.5	1.2	0.9 (0.4)	-	▲ 23.2
期末在庫量	0.6	0.8	0.4 (0.3)	-	▲ 58.4
期末在庫率	8.1%	10.2%	4.7% (4.4%)	-	▲ 5.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.27)	-	▲ 9.4
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.61 (2.66)	-	▲ 8.7

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 March 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 March 2020)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2020年3月下旬までに 発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1487>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1490>

「World Agricultural Production」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1860>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しましたが、USDAの3月レポートではEUに含まれていることから、当面、EUに含めて取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
	TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
	FAX：03-6744-2396